



Dynamic Frequency Selection (動的周波数選択)

- [動的周波数選択について \(1 ページ\)](#)
- [動的周波数選択の設定 \(1 ページ\)](#)
- [DFS の確認 \(2 ページ\)](#)

動的周波数選択について

動的周波数選択 (DFS) は、レーダー信号による干渉を回避するために、レーダー信号を検出して DFS 対応 5.0 GHz (802.11a/h) 無線の周波数を自動的に設定するプロセスです。規制ドメインで使用するよう設定された無線が、レーダーシステムに干渉しないようにする必要があります。

通常の DFS では、40 または 80 MHz 帯域幅のいずれかのチャンネルでレーダー信号が検出されると、チャンネル全体がブロックされます。Flex DFS を使用すると、セカンダリチャンネルでレーダー信号が検出されていない場合は AP がセカンダリチャンネルに移動され、帯域幅が (通常は半分に) 削減されます。

動的周波数選択の設定

DFS を設定するには、次の手順に従います。

始める前に

- 対応する AP が、いずれかの DFS チャンネル上に存在する必要があります。
- 設定変更を適用する前に、無線をシャットダウンします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	no ap dot11 5ghz dtpc 例： Device(config)# no ap dot11 5ghz dtpc	802.11a ダイナミック伝送パワーコントロール (DTPC) 設定を無効にします。
ステップ 3	ap dot11 5ghz channelswitch mode mode-num 例： Device(config)# ap dot11 5ghz channelswitch mode 1	802.11h チャンネルスイッチモードを設定します。
ステップ 4	ap dot11 5ghz power-constraint value 例： Device(config)# ap dot11 5ghz power-constraint 12	802.11h 電力制限値を設定します。
ステップ 5	ap dot11 5ghz smart-dfs 例： Device(config)# ap dot11 5ghz smart-dfs	レーダー干渉チャンネルの非占有時間を設定します。

DFS の確認

DFS 設定を確認するには、次のコマンドを使用します。

802.11h 設定を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show wireless dot11h
```

802.11h 設定の自動 RF 情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show ap auto-rf dot11 5ghz
```

Cisco AP の自動 RF 情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
Device# show ap name ap1 auto-rf dot11 5gh
```